

令和4年

安全安心なまちづくり道民の集い



報 告 書

日 時：令和4年（2022年）5月11日（水）午後1時00分～

場 所：北海道立道民活動センター（かでの2・7） かでのホール

次 第

1 開 会

2 挨 拶

- (1) 北海道副知事 小玉 俊宏
- (2) 北海道警察本部長 扇澤 昭宏
- (3) 北海道公安委員会委員 吉本 淳一

3 特殊詐欺撲滅メッセージ 野球日本代表トップチーム 「侍ジャパン」監督 栗山 英樹 氏

4 オンライン基調講演 講 師：拓殖大学名誉教授 守山 正 氏 演 題：「特殊詐欺の構造～新しい視点で考える」

5 閉 会

1. 開 会

○司 会 ただ今より、令和4年安全で安心なまちづくり道民の集いを開会いたします。
私は本日の司会進行を務めさせていただきます、フリーアナウンサーの高橋弥子と申します、どうぞよろしくお願いいいたします。

本日の集いは5月11日から20日までの10日間実施されます、春の地域安全運動の一環として、北海道犯罪のない安全で安心な地域づくり推進会議が主催するものでございます。

それでは、主催者をご紹介します。

北海道知事代理、小玉俊宏北海道副知事でございます。

扇澤昭宏北海道警察本部長でございます。

倉本博史北海道教育長でございます。

札幌市長代理、石川敏也副市長でございます。

公益財団法人北海道防犯協会連合会、五十嵐敏明理事長でございます。

北海道PTA連合会、菊川哲平会長でございます。

続きまして、ご来賓をご紹介します。

北海道公安委員会委員、吉本淳一様でございます。

2. 挨拶

○司 会 それでは、主催者から御挨拶を申し上げます。

小玉副知事、お願いいいたします。

○小玉副知事 ご紹介いただきました、小玉でございます。

ご案内いただきました北海道知事鈴木直道が、所用で出席ができませんでしたので、私より言葉を代読させていただきますと思います。

皆様にはお忙しい中、令和4年安全安心なまちづくり道民の集いにご参加いただき、心から感謝申し上げますとともに、日頃から安全安心どさんご運動をはじめ、犯罪のない安全で安心な地域づくりにご尽力いただいていることに、深く敬意を表します。

本道における犯罪の認知件数は、近年減少傾向が続いており、昨年は、平成に入ってから最も多かった平成14年の約5分の1まで減少しています。

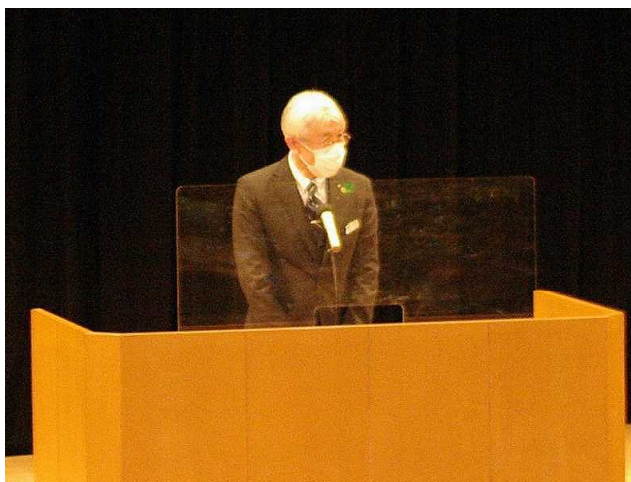
これもひとえに、本日お集まりの皆様をはじめ、防犯に携わる多くの方々のご尽力の賜物であり、重ねて感謝申し上げます。

一方で、特殊詐欺や子供や女性を狙った犯罪、インターネットを利用したサイバー犯罪など、道民の皆様の不安

を助長する事件が後を絶たず、特に、今年の特種詐欺の被害額は、3月末時点ですでに、昨年一年間の被害総額の半分を超える深刻な状況にあります。

犯罪のない安全で安心な地域の実現は、私たちが生活していく上での基盤となるものであり、道民すべての願いです。

犯罪を未然に防ぐためには、道民の皆様お一人おひとりが安全への意識を高め、地域が一



体となって防犯活動に取り組み、犯罪が発生しにくい地域づくりを進めていくことが重要です。

お集まりの皆様におかれましては、本日から始まる春の地域安全運動を契機として、あいさつ・みまもり・たすけあいの精神で、積極的な取組をお願い申し上げます。

結びに、皆様のますますのご健勝とご活躍を祈念申し上げ、私からの挨拶といたします。

令和4年5月11日、北海道知事鈴木直道代読。

○司 会 ありがとうございます。続きまして、扇澤昭宏北海道警察本部長、お願いいたします。

○扇澤北海道警察本部長 警察本部長の扇澤でございます。

本日は、ご来賓に北海道公安委員会より吉本委員をお迎えし、また、皆様方、多数の方にご参加をいただきまして誠にありがとうございます。皆様方におかれましては、地域の安全安心のための活動にご尽力されていることはもとより、警察行政各般にわたるご理解とご協力をいただいておりますこと、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。ありがとうございます。

さて、犯罪の発生、治安の状況ですが、昨年まで刑法犯認知件数、これが19年連続で減少をしており、今年に入りましたも、その減少傾向が続いております。

これもひとえに皆様方のご活動と、関係機関団体が一丸となった成果であろうと思います。

他方で、懸念される状況もでてきており、その一つが、この安全運動の重点で

ある、特殊詐欺被害の多発です。昨年の後半から、多額の被害に遭われる方が増え、今年に入ってもその傾向が止まらず、先ほど副知事がおっしゃいました、3月末からさらに月日が経過しても、ますます被害額が増える一方であり、昨日までのところで既に北海道全体で約4億5,000万円もの被害が生じているという極めて深刻な状況です。

私ども、特に高齢の独居の方に対して、怪しい電話があったら気軽に相談をしてくださいと、従来から申し上げていますが、考えてみますと予兆電話という言い方をしておりましたけれども、やや、堅苦しい言葉ですので、これも詐欺電話というふうに言い換えました。

また、気軽に110番をしてくださいと申し上げても、なかなか敷居が高いということもあるかと思っておりますので、私どもの相談専用電話であります、#9110（シャープ・キュー・イチ・イチ・ゼロ）、こちらであれば気軽にお掛けいただけるのではないかと、ということで、詐欺電話がきたら#9110ということのをこれから強力に啓発広報展開をして参ろうと思っております。皆様方におかれましては、ご協力をどうかよろしくお願いいたします。

それからもう一つの懸念といたしまして、最近都市部を中心にひったくりが多発しています。被害は女性が多いため、やはり安全運動の重点である、子供と女性を被害から守るということなのです。

私どもも考えてみますと、ひったくりというのは、体感治安のバロメーターのようなところがあり、せっかく外出をしても、いつ強引に物を盗られる、ひったくられるのであれば、おちおち外出もできないということになりかねません。現在、我々は捜査と情報提供を進め



ているところ です。

皆様方におかれましても、様々な地域における声かけ、見守り、そういった活動に引き続き、可能な範囲でご協力をいただければ大変幸甚に存じます。よろしく願いをいたします。

結びに、皆様方のご活躍とご健勝、それからコロナ禍が1日も早く収束することを祈念いたしまして、私のあいさつとさせていただきます。

○司 会 ありがとうございます。

次に、ご来賓であります北海道公安委員会委員の吉本淳一様からご祝辞を賜ります。

吉本様、よろしく願いいたします。

○吉本北海道公安委員会委員 ただいまご紹介をいただきました、北海道公安委員会委員の吉本でございます。

令和4年の安全安心なまちづくり道民の集いの開催にあたり、北海道公安委員会を代表いたしまして、一言ご挨拶を申し上げます。

本日お集まりの皆様方には、平素から安全で安心な地域づくりのために、格別のご支援、ご尽力を賜っておりますことに心から敬意を表しますとともに、厚く御礼を申し上げます。

さて、北海道における治安情勢を見ました。先程、お話もございましたが、昨年は刑法犯認知件数が19年連続で減少して、戦後からの統計史上最少を記録し、高い治安水準が維持されているところであります。

その一方で、高齢者等を狙う特殊詐欺による被害が後を絶たず、さらに、虐待やDVといった、子供や女性が被害者となる犯罪についても、依然として多く、予断を許さない情勢にあります。また、サイバー犯罪など、急激な時代の変化に伴う新たな犯罪への対応も求められているところであります。



本日から春の地域安全運動が始まりますが、道民の切なる願いであります、犯罪や事故のない安心して暮らせる北海道の実現のために、さらに多くの道民の皆様、規範意識や倫理感、自主防犯意識が高まり、人と地域社会との絆がなお一層強まることを期待しております。

結びに、春の地域安全運動が実り多き活動になるとともに、本日お集まりの皆様方のますますのご健勝とご活躍を御祈念申し上げ、挨拶とさせていただきます。

○司 会 ありがとうございます。

3. 特殊詐欺撲滅メッセージ

○司 会 続きまして、特殊詐欺撲滅メッセージに移らせていただきます。ここからの司会は、北海道警察本部生活安全企画課特殊詐欺抑止対策係の吉川係長をお願いいたします。吉川係長、よろしく願いいたします。

[司会交代]

○司 会 皆さんは詐欺にだまされない自信はありますか？警察官、役所、銀行などから

掛かってきたその電話は本物ですか？「オレ、オレ」と言われて、ご自分の家族からの電話だと思ひ込んでいませんか？私は大丈夫と思っている方にも案外危険は訪れるものです。

これからご覧になっていただく動画では、偽物の区役所職員が電話で登場します。電話を受けているのは、皆さんご存知の侍ジャパン栗山監督です。栗山監督には台本なしで回答していただいています。栗山監督が偽の区役所職員に対してどのような感想を抱かれるのか、ご注目ください。それでは、特殊詐欺撲滅メッセージ動画をご覧ください。

[だまされ体験の開始]

○栗山監督 (電話の呼び出し音) はい、栗山です。

○犯人 A もしもし、栗山様のお宅でしょうか。

○栗山監督 はいそうです。

○犯人 A あの、こちら中央区役所保険課の佐々木と申します。

○栗山監督 はい、お世話になります。

○犯人 A あの、今年の3月までにですね、栗山様宛にですね、医療費の還付手続きの用紙を郵送していたんですが、お受け取りになっていらっしゃいますでしょうか。

○栗山監督 いや、僕分かってないですね、受け取って見てないです。

○犯人 A 緑色の細長い封筒で、中に医療費還付の手続きの方法など書かれた用紙が入ってたんですけども。

○栗山監督 そうですか。ちょっとごめんなさい、後で確認します。

○犯人 A そうですか、あの、実はですね、平成28年から令和3年までの5年分の医療費の過払い料がですね、3万8,520円ありまして、栗山様のほうに還付することになっておりまして、その受取手続きの書類を送らせていただいたところだったんです。申請の締め切りがですね、先週まででした、そちらからですね、申請がありませんでしたので、ご確認の電話をかけさせていただいたところなんです。

○栗山監督 そうですか、すいません、何も気が付いてなくて。

○犯人 A それでは本日中であればですね、ATMであれば手続きすることが可能なんですけども。向かうこと出来ますでしょうか。

○栗山監督 すいません、ちょっと今、仕事でバタバタしているんですが。

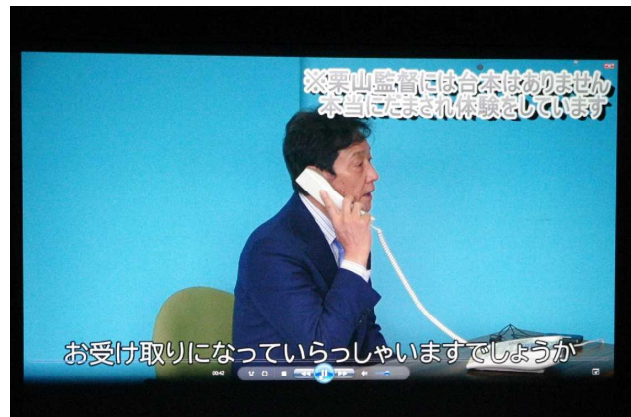
○犯人 A そうですか。ちなみに栗山様の銀行口座はどちらの銀行になりますでしょうか。

○栗山監督 口座、僕の銀行の、個人名でいいですか。

○犯人 A どちらの銀行の口座であるとか・・・

○栗山監督 そうですか、僕が持っているのはマルマル銀行ですね。

○犯人 A マルマル銀行さんですね、わかりました。今日ですね、ATMに向かうことができるのであれば、銀行の担当者に連絡をいたしまして、手続きできるようにしたいと思う



のですけども。今日近くのスーパーなんかのですね、ATMでも構わないのですが、そちらの方に向かうことは出来ますでしょうか。

○栗山監督 今すぐはあれですけど、ちょっと時間経ってからなら大丈夫です。

○犯人 A そうですか、わかりました。それではですね、こちらの方からマルマル銀行の担当者にですね、連絡いたしまして、振り込み手続きができるように手配いたします。その時ご対応していただければと思います。

○栗山監督 分かりました。

○犯人 A のちほどマルマル銀行のコールセンターからですね、栗山様宛にお電話がいきますので、その時ご対応していただければと思います。

○栗山監督 分かりました。

○犯人 A そういふことで、よろしくお願ひします。

○栗山監督 すいませんね、ありがとうございます。（電話を切る）

○栗山監督 （電話呼び出し音）はい、栗山です。

○犯人 B 栗山様ですか

○栗山監督 はい。

○犯人 B わたくし、マルマル銀行コールセンターの吉村と申します。

○栗山監督 はい、お世話になります。

○犯人 B 中央区役所の医療費還付の手続きについてご説明させていただきたいのですが、よろしいでしょうか？

○栗山監督 お願いします。

○犯人 B お近くにATMはございますか。

○栗山監督 はい、あります。

○犯人 B 大変申し訳ございませんが、申請の締め切りが過ぎているので、ATMでしか手続きが出来ないんです。

○栗山監督 はい。

○犯人 B スーパーのATMコーナーでも構いません。先ほど近くにあるとおっしゃっていたんですが、そこにですね、キャッシュカードと携帯電話を持って言ってください。

○栗山監督 キャッシュカードと携帯電話。

○犯人 B ATMコーナーに着いたら、只今からお電話番号を申し上げますので、その場でお電話をしてください。お電話番号を申し上げてよろしいでしょうか。

○栗山監督 はい、大丈夫です

○犯人 B はい、それではお電話番号011・・・

○栗山監督 011・・・

○犯人 B はい、123・・・

○栗山監督 123、はい

○犯人 B 4567番になります、ATMコーナーに着きましたら、お電話してくだされば機械の操作方法をお教えします。

○栗山監督 じゃあ、その場でここに電話したら誰か待っててくれるって感じですか。

○犯人 B はい、お電話していただければですね、その場でお電話で操作方法をお教えしますのでお電話ください。

○栗山監督 わかりました。

○犯人 B はい、お電話お待ちしております。よろしくお願いします。

[だまされ体験が終了し、体験を終えての感想]

○栗山監督 だまされますね、これ。今の人だったら。こんな良い人来たらホントだと思っちゃいますね。僕らもたくさんの人に会うので、電話の声っていうのは信頼できるとかいうか安心できるという雰囲気の方を自分では分かるつもりでいました、今も二人の声を聞くと、何か本当に僕のためにやってくれてるという感じで。

だから、あまり疑問を持たないというか、その通りに。特にお金のことは、やっぱり僕ら分からないので、言われるままにやってしまうというケースがあるので、非常に今の二人の方の声だと、僕も危ないですね。

[どのようなことに気をつければいいのでしょうか？]

○栗山監督 例えば家族とか、目の前で言われたら信じますが、それ以外でお金の事は一切僕は取り合わないと自分で決めています。

多分、その流れで言うと、この動きを最後しないようにすると思います。お金の出し入れだけは本当に知っている人に面と向かって言われたい限りお金は動かすなって、僕は周りに伝えていきます。

そうは言っても結構大変だなと思いました。こんな声出されたらすごい僕のためにやってくれる感じがするので、ちょっと気をつけなきゃなと思いました。

[つい信じてしまいそうな時ありますよね。]

○栗山監督 そっかそっか、まずは誰かに相談するんですね。知り合いの人にね。

[特殊詐欺撲滅メッセージ]

○栗山監督 皆さん、今、北海道は危機的状況です。特殊詐欺犯人が北海道を狙っています。大切なのは、「有事の備え」と「みんなの絆」。家族・友人と声を掛け合い絆を深め、みんなで詐欺に警戒することです。

今こそ道民一丸となって、詐欺犯人を撃退しましょう。詐欺電話が来たら#9110。



[特殊詐欺撲滅メッセージ終了]

○司 会 これまで素晴らしい野球選手を育成し、チームを導いてきた栗山監督。頭脳派

の監督でさえ、言葉巧みな詐欺犯人の電話には危険を感じたようです。だまされ体験を通して、詐欺についてどのようにお考えになったのでしょうか。

ご本人の生の声をお聞きしましょう。野球日本代表トップチーム侍ジャパン監督で、元北海道日本ハムファイターズ監督の栗山英樹さんです。

[入場曲が流れ、栗山英樹さん入場]

○栗山監督 皆さんこんにちは、ご紹介に預かりました栗山でございます。今日は、こういう機会を設けていただきまして、本当にありがとうございます。僕もこうやっっているいろいろな経験させてもらいましたが、もしかしたら、明日、そういうことになる可能性があるということを実感させていただきました。こういう機会を作ってくくださった警察の皆さん、そして、ボランティアの皆さん本当に感謝しております。

今日のイベントをきっかけに、僕の立場でもいろいろと、広く、特に年をとられた先輩方が困らないように、広めていけるように努力していきますので、短い時間ですがどうかよろしくをお願いします。

○司 会 栗山さん、動画制作にご協力いただきまして、先日はどうもありがとうございました。今日は、一緒に特殊詐欺に



ついてお時間いただいております。お話しさせていただきたいと思っております。よろしくをお願いします。

○栗山監督 よろしくをお願いします、しっかり勉強させていただきます。

○司 会 動画撮影の中でも感想を言っていただきましたが、いかがですか。

○栗山監督 選手たちを監督室に呼んで二人っきりで話をする、その時のトーンであったり、言い方であったり、言葉であったりというのは、考え抜いて、ぶつかってきました。

ただ、この前経験させていただいた感じは、もしそのように言われたら、この人すごい良い人なんていうのは、特にそういうのを意識していただいただけに感じられたので、ちょっと怖いです。

○司 会 ずばり、詐欺犯人を電話で見抜く自信はありますか？

○栗山監督 やる前は絶対あると思ってましたけど、100%ないです。

○司 会 今回、動画で出演させていただいた区役所職員の役は、警察官ですが、私たちは事件があった時に実際の犯人の生の声を聞くということもあります。

本当にあのような感じの、悪い人ではない、優しい声だったり、声を聞いてすぐ犯人だっというふうに見抜けない場合もあるとは思っています。

○栗山監督 そうですね。

○司 会 体験前はだまされないと思っていらっしまったということですが、皆様、ご自分は大丈夫だと思ってる方たくさんいらっしやると思います。騙されやすい人、騙されにくい人について、ご自身で考えはありますか。

○栗山監督 例えば、選手もそうすが、やっぱり最後は野球の上手さにはありますけど、人間力というのか人柄だったり、誰かのために尽くせる感覚は、凄く選手を生かしていくとい

う、そこに何とか持っていけるように選手達と接してきました。

そういうのが強くなれば強くなるほど相手の気持ちが分かるので、苦しいんだろうな、大変なんだろうなとか、自分のためにやってくれるだろうなと思うと、そこに行きやすくなってしまう。いわゆる、世の中のためになる人の方が、そっちに寄りやすくなってしまいうというのが一つです。

それと、僕が思ってるのが、自分でもそうなんですけど、例えばチームは連勝してたりして、すごく良い状況で、本当に客観的に物を判断できる時と、自分が苦しくなり、負けてどうにもならなくてという時はイライラしてますし、それに対して何か言われると、すごく心がざわついて、大丈夫かな？みたいに引っ張られたりすることがありました。

つまり、良い人は気をつけてくださいということと、自分の心がバタバタするような、例えば家族の体の病であるとか、いろいろなことがある時というのは、やはり余計に引っ張られる可能性とかあるのかなと感じます。

○司 会 相手の気持ちに寄り添おうとする人だとか、ご自身が不安定な状況であるだとか。

○栗山監督 そうですね。はい、そんな感じはします。

○司 会 栗山さんは、撮影の中で、電話でお金の話が出て、それだけでは信用しないとおっしゃっていましたが、良い人だとか、心が弱ってる場合でも、そういうことを意識していれば、詐欺被害を防止できるポイントになるかもしれませんので、もう少しお聞かせ願えますか。

○栗山監督 例えば、親切で誰かが自分のためにと言ってくれるケース。特に僕らはお会いしたことない方でも何か連絡もらったりするケースがあるので、そのような時に、これは本当に善意でやってくださってるのかどうかと、最初なるべく受け止めようとはします。ですが、そこにお金の話が出てきた時に、突然お金ってならないので、お金の話が出てきた瞬間にちょっと閉ざしてしまうような習慣をつけてたというところは正直あります。

お金の話とかは、自分の方から投げかけるというか、1回止めて、自分の方から必要だなと思った時に知り合いを通じて何か仕掛けるようにとは考えていました。

これまではそれで大丈夫だと思ってましたが、この前の電話の感じは昔からの友人で、すごく良く知ってる人のような感じの話し方をされたので、これもしかしたらそういうことになるのかなという感じはありました。

○司 会 そうですね、区役所だとか、警察官だとか、当然親族を語ったりという詐欺電話はあります。その場合、お金の話が出てそんなに疑問に思わなかったりだとか、それこそ本物のような話し方をすると、イメージが良い、真面目そう、そのような先入観があると、もしかしたら、気をつけないといけないかもしれないですね。

○栗山監督 確かに。この前お話伺ってて思ったのですが、事故なんかの時は、その人から来るわけではなく、あまり知らない人から連絡が来るはずですよ、こういうことあって、見たら住所と電話番号書いてあったので連絡しましたと。例えば、選手に何かあったと電話が来ると僕らはやはりばたつくと思います。自分の家族よりも監督やってる時は選手に何かあったというのが組織としては一番気になります。

おそらくそのように考えたら、あながち自分も危ないんだなって思いました。

○司 会 そうですね、お子さんが事故起こしたとか、仕事で失敗したりとか、そのよう

な電話で慌ててしまって被害に遭う方がいるので、それこそ先ほど栗山さんがおっしゃっていたような良い人、優しい人が危ないよという典型なのかなと思いますし、やはり気をつけないといけないですね。

○栗山監督 特におじいちゃん、おばあちゃん、お母さん、お父さんは自分の子供が誰かに迷惑かけたと思ったら、何でもしてあげようと思いますよね。

○司 会 はい。普段から、例えば電話が来てなくても、もし来たらこういうことを心掛けておこうとか、気をつけていることはありますか。



○栗山監督 ファイターズから離れて監督を辞めてからもそうなのですが、選手の個人的な問題色々起きますよね、それ全部受けとめるのは、大体マネージャーがやります。

ファイターズの人間、結構能力高い人間が若いんですけどいるので、何かあれば必ず2人ぐらいにこんなことがあったけどと言って彼らのリアクションを見て、球団で引き受けますとか、僕ちょっと連絡してみますとか、信頼できる人間の反応というか、監督やってる時は十年間、それは確実にそこに投げつけて自分で処理しないようにというのは心掛けていました。

○司 会 まさに動画の中で、困った時に家族だとか知り合いに相談するという、周りに相談するというのがポイントになります。

○栗山監督 そうですね。僕ら世代が、僕が思ってる以上にも年配で、やはり今の選手たちもそうですが、20代30代40代の今の時代に合わせたネットの使い方だったり、携帯の使い方だったり。

僕まだガラケー持ったりするんですけど、それを、分からなくなっているところもあるので逆に若い子に相談するようにはしています。

○司 会 そうですね、高齢の方々は電話に限らず、メールとかSNSとかやってみたら、迷惑なもの、詐欺のメールとかが来て、触っているうちに言われるがままに引っかかってしまったっということもあります。

そのような場合は、必ず誰かに相談するということを勧めたいですね。

○栗山監督 これはいいんですね、僕は今の感じで。

○司 会 すごく良い心掛けだと思います。あと、普段から誰かに相談するということも、普段の備えということだと思うのですが、栗山さんが備えるということスポーツ、野球のことで、必ずチャンスが来たらそのチャンスをつかめるように常に備えておくとおっしゃっているのを耳にしたことがあります。防犯などに関しても通じることかなと思うのですが、いかがでしょうか。

○栗山監督 多分皆さん、僕もですけど、自分の心の中ではどこかで持っています。自分はそんなだまされるわけないと。

でも、本当にだまされるんだって皆さん思われているとすると、人を疑うわけではないのですが、今そういうことが起こっていると、常に準備して心の中があれば、自分の友達が何かあった時に、それちょっと1回気をつけてみたほうがいいんじゃないのと言ってあげられるし、人ごとだと思っているとやはり自分も巻き込まれるし、近くにいる人も助けてあげら

れないと思います。

本当に勝負と一緒に、どれだけ自分が準備して普段生きているのかと。僕ら朝起きた時に、いつもイメージをするんですね、畑みたいなイメージがあるんですよ。この時期、すごく綺麗に整地されますよね。心の中が平らであれば物事が起こったときに、冷静に判断がつくんじゃないかと、これも勝負事の鉄則です。

やはり自分の心が何か気になってると、どうしても無理矢理に勝負に攻撃的に行ってしまうったりとか、怖いから守ってしまったりとか残っちゃうので、毎日起きると心の中を耕すという作業をイメージします。

それと一緒にの時に、今は交通事故だったり、それから人に迷惑かけないとか、自分でもなるべく準備はしてるようにします。そういう準備しておかないと、起こった時にばたついてしまうのかなという感じです。

○司 会 素晴らしいですね。

○栗山監督 そうしないと采配を間違ってしまうます。

○司 会 これはどんな仕事だとか、学生さんでも言えることだと思いますし、子供に対する教育に関しても言えることかもしれないですね。ちょっと立ち止まって心を耕して冷静になってみる、と。

○栗山監督 本当にお子さんとの接し方も、愛情を持っていくのですが、これは選手でもそうですよね。こちらが本当に何か上手くいなくてイライラしている時に、優しく言葉をかけているつもりが、選手からすると結構きついトーンになってたりする可能性はやはりありますよね。

それはお子さんの距離感と一緒にだと思しますので、やっぱりそこは我々頑張らなきゃいけないところで、僕はできてるとは言わないんですが、できるように努力はしていました。

○司 会 そうですね、選手、会社の部下、家族、話し方、教育とかもそうですし、いろいろな形で絆を深めておく、何かあったときに相談しやすい空気を作っておく。

特殊詐欺に関しても、ちょっとおかしいなこの電話、ちょっとおかしいなこのメールというだけでも相談できる雰囲気を作れるから良いかもしれないですね。

○栗山監督 やはり、何かそれはあるんですか。それとも結果的に事件というか、考えてみたらどっかやはりおかしいということはあるのですか？

○司 会 当然私たちは警察官なので、おかしいなという情報がいろいろあるので分かります。ただし、おかしいなと全く思わずに被害に遭われる方もいらっしゃると思います。

先ほど栗山さんが動画であったような区役所の職員、話を聞いていても、何も違和感がないというか。

○栗山監督 違う人に変わっちゃうと、違和感ないですよ。

○司 会 実際に金融機関に行ったりだとか、指示されたときに、おかしいなと気づく方もいらっしゃると思うのですが、怖いのは先入観かなと思います。

それこそ先ほど栗山さんがおっしゃっていたように、詐欺の目的はお金なので、どこかの時点で必ずお金の話が出てくると思います。世の中お金のやりとりは電話一本じゃ終わらないです。

栗山さん、忙しいとついつい指示された通り、手っ取り早く終わらせちゃいたくなる、そういう心理も突いてくると思いますが、やはりお金の話は気をつけてねというのは、警察で

は、よく啓発させていただいています。

○栗山監督 わかりました、人間はちょっとあんまりよくない話、早く終わらせたくなりませよ。処理しちやいたいみたいな、それを気をつけなければならないのですね。

○司 会 警察では、家族の絆で相談しあいましょうとか、先ほど本部長からもありましたが、110番するほどのことじゃないなとためらうようなことは、警察の相談ダイヤル9110、栗山さんにメッセージで言っていたあの番号にちょっとした相談でもしていただけるようなものを設けております。何か変だな、ちょっと迷うなということがあれば、ご相談いただければと思います。

私が個人的に、栗山さんが今までのインタビューとかでおっしゃっていた名言の中ですごく好きなのが、夢は正夢という言葉、これを栗山さんの言葉で改めて説明していただいていますか。

○栗山監督 はい、僕がプロにテスト生で、当時はドラフト外というような入団ができた時がありました。僕全然駄目で、本当に。監督やらさせていただいたので全くイメージないと思います全然駄目な選手。

その時に、たった1人というか、人はそういうものではなくて、夢を持つのが大事なのではなくて、夢を形にできなかつたり夢を持つ意味もないんだって、それを最後まで信じないと絶対実現ができないよという意味で、僕を信じてくれた方が夢は正夢なんだと言って頂いた言葉です。それをずっと22歳の時に頂いて、いまだに追いかけています。

本当に僕にとっては人生を救ってくれた言葉だったので、そっかそっかと、能力がないとかよりもできると思って努力し続けて形にするしかないんだと、今、結果気にするのはやめようと思わせてもらいました。そういう意味では、すごく僕にとっては、人生を救ってくれた言葉です。

あの時、駄目な自分でも本当に必死になろうと思ったような言葉が世の中に存在するんだということがあったので、その言葉が大事というよりも、選手達に手伝ってあげれば良いなと思って、ずっとやってきました。

今回も全く一緒に、長い間、本当に地道に働いてきた人生の先輩方が、本当に溜めた金がそこで無くなってしまふなんてあり得ないし、そのような事は許されないとします。

1人でも2人でも被害に遭わないように、僕らも発信させていただきなければいけないなと思いました。

○司 会 夢を夢で終わらせない、形として思い描いてそこに進んでいくということに関して、特殊詐欺、北海道本当に危機的状況ですが、北海道警察の夢というか、目標としては、やはり特殊詐欺撲滅です。

犯罪なんて絶対起こるんだとか、そういうスタンスでは正夢にならない、そのような思いで取り組んでいますが、栗山さん、一道民という立場で、私たちがそれを実現する、撲滅するためには、北海道民としてどのような事に気をつけていけばいいと思いますか。

○栗山監督 僕が偉そうに言うところではないんですが、チームにこのような感じでみんなでやろうよと思ったとしても、それを浸透するのは何かというと、一人ひとりがそう思うということだと思います。

警察の皆さんの努力も大事だと思いますが、このような感じでやってもらう中で、我々普通に生活してる人間一人ひとりがこういうことが起こるんだと、みんなでこれを無くした方

が良いよね、皆のためにねと、みんなが思うことがまず第一です。

そのようにみんな思えばゼロにはならないかもしれないけど、かなり助けてもらえるというか救ってもらえる人が生まれる可能性が僕はあると思っています。

ですから、本当に一人ひとりの力、微力かもしれませんが、集まったらものすごい大きな力になるので、我々道民がしっかり意識を皆でもって、もしくは、1人でも多く、そういう可能性あるからね、そこはちゃんと頑張ろうねと、人を疑う訳ではないですが、そういう意識をみんなで持たなきゃいけないなと思います。

○司 会 そうですね、皆さんの意識が社会の機運の高まりというか、防犯意識の高まりになっていくのかなと思います。

栗山さんはスポーツの専門家でいらっしゃるの、スポーツというものと平和な社会、これ何かポイントが通ずるものというか、スポーツの果たす役割というものを何かお考えありますか。

○栗山監督 スポーツ全体もそうですし、例えば野球に置き換えてみると、何で野球ってこんな長くやられたのかなと。僕の中で野球というのは、不平等を覚える場所といつも思っていて、子供たちが野球を始めても全員が試合に出れる訳でもないです。

ベンチにいたりコーチやったりするんですが、人はやっぱり人のために尽くせるために生きてるんだということを感じるために、例えば、変な話ですが、警察で仕事されてる方でも全員給料が一緒なわけじゃないですよ、そこに不平等感を持つ人もいるかもしれないけど、そんな事よりも、何か自分が誰かのためになれたら嬉しいなという、それが大事なんだよというのをスポーツで覚えていくものだと思います。

そのようなことを意識してる選手というのが、やはり凄く大きくなっていけるというか、ファイターズで名をなしていく選手はやはりそういう意識が凄く高く、組織のためにとか人のためにというふうになるから、余計に何か、運とか力はその選手に巻き込まれていくという感じでずっと見てきました。

ですからそういうためにもスポーツはあると、もちろん健康とかいろいろな理由があると思います。

僕らも先輩に良く言われましたけど、野球が長く子供たちのためになるようにしなきゃいけないんだということをすごくきつく言われてきています。そのようなこともしっかりメッセージを送っていかなきゃいけないので、そのような意識があれば、犯罪も少しでも減らせることができるのではないかと思います。

○司 会 私たちは、被害者の方に多くを訴えています、やる側も当然いるわけで、そのスポーツのような力で心を洗われるような人がたくさんできれば社会の平和につながるのかなと考えたいですね。

○栗山監督 はい、頑張っていきます。

○司 会 ありがとうございます。本日、ご覧いただきました先ほどの動画のほかにも、栗山監督の力強いメッセージをいただいた動画を製作しています。これらについては、北海道警察の公式 YouTube チャンネルの方で配信する予定です。皆さん、ぜひご覧ください。栗山さん、今回とても貴重なお話を頂けて、私もためになったのですが、最後にもう一度本日会場にお集まりの皆さんと、北海道の皆さん全体に向けて特殊詐欺を吹き飛ばすような元気なメッセージを一言前の方で頂けるでしょうか。

○栗山監督 皆さん、今日は短い時間でしたが本当にありがとうございました。僕自身も本当に特殊詐欺というものがあるのに北海道で多いということ、それから自分の身の回りには絶対起こらないというふうに思っていたのですが、今回、勉強させていただいて、本当に身近なものなんだなという感じがします。

先ほどお伝えしましたが、北海道はこういう詐欺が絶対起こらないんだという、一人ひとりの強い思いがあれば必ず減っていきまじし、そういったことはやってはいけないんだと皆さんが思ってくださいと信じていきたいというふうに思いますので、みんなで力を合わせて、より住みやすい、そして、みんなが幸せになれるような北海道にしていきたいと思うので、ぜひみんなで頑張っていきましょう。今日はどうもありがとうございました。



[司会交代、栗山英樹さん退場]

○司 会 栗山監督らしく北海道への愛に溢れた熱いメッセージをどうもありがとうございました。最後にもう一度栗山監督に大きな拍手をお願いします。

4. 基調講演

○司 会 続きまして、本日の基調講演に参ります。

講師の拓殖大学名誉教授、守山正様をご紹介します。守山様は、福岡県にお生まれになり、ケンブリッジ大学犯罪学研究所客員研究員、国連ローマ犯罪司法研究所客員教授、拓殖大学政経学部教授などを経て、現在、拓殖大学名誉教授、犯罪に関する研究がご専門で防犯活動の普及支援に努めておられます。

本日は、「特殊詐欺の構造～新しい視点で考える」と題して、オンラインにてご講演いただきます。なお、通信状況の不具合が発生した場合、改めて接続して再開いたします。それでは守山様、よろしくお願いいたします。

○守山教授 ただいまご紹介いただきました、拓殖大学名誉教授の守山と申します。本日はオンラインで東京から話したいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

私の専門は犯罪学、あるいは刑事政策という領域です。犯罪学という領域は格別皆さんに説明しなくても、ある程度イメージとしては、お分かりになっていただけるのではないかと思います。要するに、犯罪学と刑事政策という領域のいずれも、将来の犯罪を防ぐためにどうしたら良いのかを考える領域ということになります。

ただ、私は最近の犯罪学の目指すところが何かということでもさらに考えております。要するに犯罪の状況、北海道でも色々と警察から統計が出されているかと思いますが、現在の犯罪状況というのはある意味で統計的には非常に良好な状態です。犯罪が急激に減少してきている、そういうところがあります。

2002年、平成14年に日本は戦後の最高の犯罪の認知件数、警察が認知した件数が最高になったのですが、現在はむしろ戦後最低の状態、低いレベルにあります。そうなってくると、犯罪が減少していくということは非常に良好な状態ですから、もうこれでいいのかな

ということになると思います。

しかし、私はそうではなくて、それよりも先に、さらに先を考えるべきこととして、地域の皆さんの安心感、あるいは不安感を抑える、毎日安全で安心して生活できることを目指すべきではないのかというふうに考えています。

と言いますのは、統計的に先ほどお話ししたように、犯罪が急激に減少していることなのですが、我々が各地で行った不安感調査によりますと、「最近犯罪が増えているんじゃないか」と、むしろ不安を訴える方が少なくありません。

統計的には被害が減ってるはずなのに、体感としては、むしろ犯罪は増えているんじゃないのか、あるいは不安感が強まっているというところが見られます。これは地域によってもかなり格差がありますが、つまり、一般の方々は、そんなに犯罪統計に詳しいわけではないので、現状を逐一把握されているわけではありません。

だから普通、自分の体で感じるところで、犯罪の今の状況、治安の状況を考えている方が多いのです。そうすると、これは犯罪学だけではなく、おそらく警察の関係者とかもそうだと思いますが、目指すところは安心して生活できる状況、地域の方々の安全、安心を見据えて活動すべきではないのかと思います。

このような状況を犯罪学の文献などでは、「生活の質の向上」と言っています。生活の質を簡単に言うと、日々、オドオドしたりビクビクしたりすることなく生活するレベルで、これを向上させていくということは、そういうオドオド、ビクビクしなくても、快適に安全、安心して生活できることを意味します。しかし、従来、研究者も警察も犯罪さえ減らせれば、これで人々は安全、安心に暮らせるはずだと考えてきました。

しかし、犯罪を減らすだけにこだわってはいけないのであって、その先に、安全で安心な生活ができる、そういったところを目指すべきだろうというふうに思います。

ちょっと前段が長くなりましたが、今日お話しする特殊詐欺も似たような話で考えることができるのではないかと考えています。

特殊詐欺の中には、電話がかかってきたけど、これはどうやら怪しいということで、電話を切って引っかけからなくて済んだ、という方も少なくありません。おそらく引っかけからなかった人が警察に通報するという事はないか、少ないと思います。よく我々はこれを「暗数」、暗い数字と言うんですが、表に出てこない、統計には出てこない数値として考えるべきだと思います。

しかし、引っかけからなかった方でも、電話は断って事なきを得たけれど、何でウチの電話番号知ってるんだろう、あるいは何かウチのことは監視されてんじゃないのか、また電話がかかってくるんじゃないのかという不安が残るかと思います。

だから引っかけからなかったから良かったということで済まない場合もあると思います。つまり、警察にとっても、研究者にとっても、また地域で活動されている方たちにとっても、「生活の質」を維持するうえで、そういう不安感を削減していく、減らしていくということ



が非常に大きなテーマだと考えています。

実際に、私たちのグループで犯罪予測というのをやっております、これはコンピュータ、特にAIを使って特殊詐欺も予測してみる方法です。実際に神奈川県警の方々と協力して特殊詐欺の予測もやってみました。コンピュータにデータを入力して、それで結果を弾き出したところ、次のことが明らかになりました。

例えば、予兆電話が大体いつごろにかかってくるかとか、例えば何曜日の何時頃とか、被害を受けた住宅が大体どういう地理的状况にあるのか、例えば近くにコイン駐車場があるのか、コンビニまでの距離が近いとか、あるいは駅までの距離が近いとかなど。そして、そこそこの結果が得られました。ただ、これは一定地域の被害宅の入力数がすごく少ないです。将来当たるのかどうかということまでは分かりません。近い将来、北海道でもAIを使って予測していくということも可能だと思っていますが、なかなか今の時点では難しいと言わざるを得ません。

そこで、今日、特殊詐欺の話をする中で、もっと現実的に特殊詐欺とはどのような犯罪なのだろうか、とくに日本社会との関係で何か特徴がないのかということを見て行きたいと思います。

特殊詐欺もいろいろな手口がありますから、一口に言うのは非常に難しいです。そこで、オレオレ詐欺を中心に考えていただきたいですが、私が知る限り海外、特に私の研究対象のイギリスの現地の人たちに話を聞くと、日本で起こっているような特殊詐欺、オレオレ詐欺はほとんどありません。全くないこともないらしいんですが、非常にまれなケース、つまり起こっていないと言ってもいいと思います。

私は、数年前に国際学会でこのオレオレ詐欺の話をしたことがあります。その結果、欧米の国の研究者の人たちからも、何でそんなことが起こるのか、孫や息子の声だったら分かるだろとか、なぜ両親とか祖父母とかがお金を払ってしまうのか、お金を払わなければいいのではないか、という質問を多々受けました。彼らからすると、オレオレ詐欺に引っかかるというのはちょっと想像しがたい、と。私も想像しがたいですけど。

しかし、現実には被害に遭われる高齢者の方は少なくないことはご存じのとおりです。ただ、アジアの国々、台湾とか香港でもけっこう起こっていると話を聞きましたので、アジア固有の現象なのかな、と。では、なぜアジアで起こって欧米で起こらないのかということのも研究テーマとして興味があります。

それから次に、高齢化社会。被害者になりやすい人たちの多く存在する社会、そこが狙われている。それを標的にしている。先ほどの話と関わりますが、日本でオレオレ詐欺がなぜ多いのかを問うときに、犯人グループは、高齢者が守っている日本の家族主義を悪用しているのではないかと思います。家族のメンバーをすごく大事にする、だから家族に誰か不幸があればみんなで助け合う、親族を含めて。これは決して悪い風潮ではないでしょう。非常にある意味では大事な風潮だと思うのですが、それが悪用されているということです。

しかも、家族の恥を晒したくないという心理も働いています。要するに息子や孫が失敗したというのはあまり世間に知られたくないということで、なるべく穏便に済ませたいという場合もあるかと思います。

そして、日本人の国民性。ここで言いたいのは、他人に迷惑かけたくない、他人様には迷惑をかけるなど、幼いころから両親、おじいさん、おばあさんに言われてきたことです。そ

ういう他人様に対する考え方を逆に犯人に利用されてしまっている。それがオレオレ詐欺の一つの特徴というか現れではないかと思えます。

もちろん警察は取り締まりを強化しているかと思えますが、犯人側も非常に巧みに、あまり褒めてはいけないんですが、臨機応変に手口を変えてくる。あとで統計的なものを見たいんですが、1990年代の終わりぐらいから、オレオレ詐欺などの特殊詐欺が注目され始めます。そういうところから見ても20年以上続いてきた手口で、しかもなかなか収束しないといったところを見ると、警察や社会が新手の手口に対応しきれていないというのも、現実なのではないかと思えます。

高齢化社会という、被害に遭いやすい人たちが非常に多く、比率が高い社会、これからまたさらに高齢化が進むという予測もありますので、今後の見通しとして、こういうターゲットにされやすい人たちを別の方法で保護するというか、守るといふ、こういう状況を作っていかなければ対応するのが難しくなるかもしれません。

要するに、日本社会の特徴である、先ほどの家族主義、国民性、人を疑ってはいけない風土、こういうものが重なり合っている状況が、特殊詐欺を生み出している風土というか、社会だと思えます。

私も家族主義、もちろん家族を、いたわり、かばい合い、そしてみんなで助け合っていくという姿は美しいと思えますし、決して悪いことではないと思えます。

先ほどイギリスの話を少ししましたが、イギリスではインターネット詐欺がものすごく多いらしいです。手口の中に架空請求詐欺とかありますよね、それから商品を送りつけて金を騙し取るとか、そういう悪徳商法みたいなものは、イギリスでも多発しているらしいですが、オレオレ詐欺といった家族を利用した犯罪はほとんどありません。

何故かと言うと、子どもの自立を非常に重視する社会だからです。イギリスでは、高校を卒業したら、大学に入る時には親元から離れて寮に入るか、あるいは自分たちでアパートを借りてシェアしてそこで住むか、授業料、学費もローン組んで自分で払うような、そういう社会です。

それに対して、日本では、東京の会社に就職して、実家が東京にある人はほとんどの場合、実家から通う人が多いですが、イギリスではそれは考えられない話で、ロンドンの大学や会社に入ったのに、ロンドンの実家から通うのはあり得ない。つまり、家を出なければいけない、それほど、親の厄介にならないで自立した人生を送らなければならない社会です。

社会人となって働いている者が、自分の失敗でお金盗まれた、かばん落とした、そういう不祥事を起こしたら、イギリスではこれは自分で何とか工面します。家族に相談しても助言ぐらいはしてくれると思えますが、それはもう自分で考えなさいと、何とかしなさいという話になるわけです。だから、犯行者グループも、そのような手口を使ってもイギリス人は引っかけられないというか、そういうことで利益を上げられないので、初めからそのような手口は考えないという社会です。

だとしたら、また対策のところでは話したいのですが、日本でも電話がかかってきたら、とりあえずは断るとか、とりあえず自分の力で何とか考えて工面してやってみたらどうかと、それでうまくいかなかったらまた相談に乗るよという風潮というか、そういう考え方が社会に浸透すると、犯行者も、この手口は通用しないと言って諦めるんじゃないかというふうに思われます。日本でも若者の自立を促し、このような手口が通用しない社会を創るといふか。

次の統計ですが、警察庁の統計から私がグラフにしたものです。2004年以降、一時的に2008年から2009年にかけてガクンと認知件数が減り、検挙率がガンと上がりました。警察が相当頑張って犯人を捕まえたことが分かります。そして、本人確認法、例えば、銀行口座を作る時に本人確認しないと口座が作れないとか、使い捨ての携帯電話、プリペイドが使えなくなった、携帯を使うにも本人確認が凄く厳しくなった、そういう背景もあるかと思いますが、一時期収束しました。

ところがまた徐々に徐々にぶり返してきた。この問題は時間の関係で触れることが出来ませんが、手口が変化してきて、また別の手口が変わってきました。銀行を介すると銀行で阻止される、銀行でも入金するのが非常に難しくなっている、だから今は受け子と呼ばれるようなお金を受け取りに行く役割の人たちが直接被害者の家にお金を取りに行くといったところになるわけです。こういう手口が変わることによって犯行がぶり返し、神奈川県警で話を聞いたところ、今年は被害額が昨年の3倍くらいになっているようです。だから件数が減っても犯人は効率良くこの犯罪を実行したため、被害金額自体は上昇しています。

かつては非常にランダムに、手当たり次第にやっていたが、的を絞って富裕層を狙う、そうすると一件あたりの被害額が大きくなり、件数自体は減っている状況になっています。言い換えれば、特殊詐欺の効率化が進んでいるといえます。

次に被害額の水準ですが、全国統計によると、2014年度で566億円という膨大な被害金額が出ており、これまでの累計でも6000億円近い被害があります。もちろん、この中には一部被害が回復しているものもあると思いますので、どの程度正確な数字であるのかは分かりませんが、単純計算すると、このぐらい被害額が出ているということですね。



要するに、お年寄りが大事に貯めた貯金がこれだけ奪われてる、非常に深刻な社会状況と言えらと思います。

北海道警から頂いたデータに私が被害金額を足した図をご覧に頂きたいですが、件数自体は減って被害金額が上がっているということは1件当たりの被害額が上がっていることを意味します。これは神奈川県警の話と似たような状況だと思います。

ここで私が気づいたポイントといいますか、北海道はオレオレ詐欺が非常に少ないですね。全国統計ですと、被害金額の半数近くをオレオレ詐欺が占めていますが、北海道は架空請求詐欺が大半です。北海道の事情は、私よりも現地の皆様の方が詳しいかと思いますが、オレオレ詐欺は一軒一軒、受け子が取りに行っているという話になってくると、北海道は広く遠いので、なかなかそういう手口が通用しにくいのかなと思いました。ところが、架空請求詐欺だと対面でお金受け取る必要ないですから、架空請求詐欺の比率が高いのも、そういう事情もあるのかなと。この点は私の全くの推測ですから、北海道警で十分分析されてることだと思います。

次は対策面です。対策を知る前に特殊詐欺が何故犯行者に魅力的に映っているのかを考えてみますと、アメリカの研究者でロナルド・クラークさん、私が非常に懇意にしている方で

すが、この先生が犯罪学的に合理的選択理論という理論を打ち立てています。大まかに言うと、犯人はよく頭を使って犯罪をしている、つまり三つの要素が重なると犯罪が起りやすくなるという、特に財産を目当てとする犯罪について通用しやすい理論です。

一つは「犯行が容易である」。つまり簡単に犯行が出来てしまう。例えば住宅侵入盗に限ってみると、住宅に入るのに玄関の鍵1カ所、カチャカチャと開けると簡単に中に入れるとか、ガラス窓をバーナーで焼き破って簡単に入れるとか、トイレの窓はいつも鍵が掛かってないとか、そういう犯行が容易であると労力が少ないですから、鍵が何重にも掛かっている家より、はるかに犯行者からすると簡単ということです。

それから「捕まるリスクが低い。」これも当然ですが、大金をせしめても捕まったら元も子もないので、捕まらないだろうという目安で犯行を行います。犯行者は、顔を見られるのを一番嫌がります。何とか顔を見られないで犯罪を実行しようとする。そして、これも当然ですが、「報酬が多い」。さっきのオレオレ詐欺は何千万円、過去には1件で億単位の被害に遭われた方もいるようですが、1件でそれだけの報酬があれば、これはもう犯行者から言えば笑いが止まらない。クラーク先生は、こういう3つの要素を満たすと犯罪が非常に発生しやすくなると言っています。

これに対抗するには、この逆のことをするという事です。実際には、特殊詐欺、オレオレ詐欺を中心に考えていただきたいですが、携帯電話を使って非対面、その犯行グループの幹部は全く被害者と顔を合わせることはありません。受け子といったようなアルバイト感覚で雇われた人たちが実際に顔を見られるかもしれませんが、犯人グループ上部に捜査が及ぶかという、なかなかそうもならない状況があります。こういう非対面構造、それから犯行が合理的で、しっかり役割分担も出来上がっている。劇場型と言われますが、まさに犯行者が役割分担して、それぞれの演技力で犯行が行われているという実態があります。

以前、東京のNHKのニュースで、オレオレ詐欺の事件を紹介していましたが、ある事件では、最初に犯人から電話が掛かってきて、おばあさんが見事にこの犯行を見破った。ここまでは良かったのですが、またすぐに電話が掛かってきました。今度は警察からだ。「先ほどこういう電話が掛かってきませんでしたか」ということで、おばあさんが「さっきありました、しかし私は引っかけからなくて済みました」と言ったら、警察の方から「すいません、引っかけたふりをする作戦を今やってるんですが、次に電話がかかってきたら、それお願いできないでしょうか」と言われ、おばあさんは「わかりました。お役に立てるなら是非」と答えました。警察はさらに「申し訳ないんですが、封筒の中に現金を入れて、ちょっと郵便受けの中に入れておいて頂けますか、我々は周りで見張ってますから、犯人が現れたらそこですぐに逮捕します、ご協力お願いします。」と言われたので、おばあさんは素直に郵便受けに現金を入れた封筒を入れたところ、まんまと犯人に持って行かれてしまったという事件が発生したのです。犯人グループは警察が対応しているやり方をすぐに取り入れ、犯行に使っている。ものすごく頭がいい、まさしく合理的です。

そして、相手が信用しやすいように、警察だとか、銀行協会とか、日本社会で信用されるような機関や団体の名前を使って非常に巧妙です。

また、犯人グループは捕まらない努力も怠っていません。先ほど説明したように、犯罪グループの幹部は下部のメンバーをトカゲのしっぽ切りのように切れればいいわけで、上部に至らないよう、捕まるリスクを非常に低くしているのです。そして標的を絞って効率的に利益

を上げている。このように、非常に犯人は巧妙で賢明ですので、これに対抗するには高齢者、私もそうですが、認知機能が低下したようなお年寄りからすると、これに対抗するのは至難の業ということになります。

ただ、そうも言っていられないので、何とかこれに賢く対抗する必要があります。そこで、「犯行者の嫌がることをする」ことが重要です。つまり、犯行者は、犯行が容易で、捕まるリスクも低く、犯罪報酬が多いということに魅力を感じているのですから、これを逆手にとって嫌がることをしなさい、というのがロナルド・クラーク先生の提言です。

以上の話をオレオレ詐欺に当てはめてみると、例えば、受け子が来た場合に名刺などの「身元が証明するものを見せてください」とか言ってみて下さい。最近ある事件でこれをやったところ犯人が逃げ帰ったという話があります。やっぱり身元がばれると捕まりやすくなりますので、非常に嫌がります。あるいは、雑談で「近所でオレオレ詐欺の話が出ました、引っかかった人がいましたよ」とか、「私知り合いの人に警察の人がいるから相談してみます」というように、警察という言葉を出しただけでも効果があるかもしれません。他には、本当の孫や息子しか知らないような、例えば奥さんの名前で「〇〇さん、元気？」とか「会えないけど最近元気なの？」と聞くとドキッとします。あるいは「あなたのお嫁さんの名前何だっけ？」と言って、わざとよせたりする。

また、先ほども言いましたが、電話がかかってきても直ぐに返事をするのではなく、「ちょっといま、お金準備出来ないから、明日電話してくれないか」と、これ言うと大概電話切ってしまうと思います。明日までの時間の間にばれると思うからです。このように、直ぐに反応するのではなく、少し自分を落ち着かせ、世間話をしながら対応して、相手の様子を見るのもよいと思います。

そうとはいえ、実際に引っかかった人の話を聞くと、大概、犯人が焦らせてきます。つまり、そんな悠長な話させないような、そういう暇を与えないような、急かすことをさんざん言ってきます。急かすことを言ってきたら、それ自体が怪しいと思ったほうがいいです。ただ、なかなか高齢者の方々は冷静な判断をしにくい状況を作られるので、日頃から準備していないといけません。本当は家族で日頃から対応することを考えておかないと、とっさの判断ではなかなか対応が難しいと思います。

そもそも、息子か孫が現金の入った会社のカバンをなくした、電車の網棚に忘れたとかといった場合、本当にこういう事件や問題が起こったら、普通はどう対応しているでしょうか。まず会社に電話を入れて、実際に起こったことや謝罪などの話をすると思います。その日のうちに会社に賠償することは普通あり得ません。会社とも相談して時間をかけて少しずつ支払うとか、数ヶ月後にまとめて払いますとか、そのように会社と交渉して相談するのが常識です。大金なので、家族みんなで「どうしようか」と相談することもあると思います。社会人として働いているのであれば、応援してくれる家族から「あなたも少しは出しなさいよ」という話になるかも知れません。

先ほどのイギリスの話ではありませんが、本人が全く負担せず、おじいさん、おばあさんに全部払わせるということは、日本社会の在り方としてどうなんだろうと思います。最初に孫から電話があったとしても、肩代わりで払うことを断るという選択肢も考えて良いのではないかと思います。

これまでの話をまとめると、「犯人が嫌がることをする」ことによって被害を未然に防ぐ

という先ほどのクラークさんの助言に従うのも一つの方法だと思います。もっとも、なかなか日本のお年寄りの皆さんは優しくて人の困る事をわざわざ言うのも抵抗を感じる方が少なくないでしょうから、「嫌がること」をやれって言うと人が悪いというふうに感じる方もいると思います。

ですが、まず孫や息子が本当に事件を起こしたとしても、まず自分で解決しなさい、まずあなた自身で解決しなさいよ、また相談に乗るからと言って、まずは断る。

また、受け子が、自分じゃなくて友だちが取りに行くという場合、全然孫とは別人が来たりするので、「本人が来たら何とか工面するから、本人が来るように」とか、家の中に人がいることをちらつかせて「今ちょうど娘が来てから相談してみるよ」とか言うのと、犯人側は、高齢者が一人にいると思っていますので、これはまずいと感じるはずです。

さらに、ちょっと差し出がましいという感じで「じゃあ、私が直接会社の人と相談してみるよ、会社の名前と電話番号を教えて」と言う。つまり「ちょっと待て」ということです。一呼吸置く。ただ、そうは言っても引っかかる人は、パニック状態になって頭が真っ白になると聞きますが、少しは減らす手立てになると思います。

実際、日頃はしっかりされてる方も結構引っかかっているという話を私は聞いたことがあります。私は、大学で特殊詐欺を半年間かけて解決するという授業を担当し、半年かけて色々な方に来ていただき経験談を聞くというカリキュラムを実施したことがあります。その時に本当に引っかかったおばあさんに来て頂いたことがありました。その方は元々区役所に勤めていた方で、現在もボランティアとして社会活動をされている、凄くしっかりした方で70歳前後の方でした。

その方は、その授業で、我々に「実は、私は職場ではしっかり者だと思われていた。自分でもまさかオレオレ詐欺に引っかかるとは全く思ってなかった」と話されました。たまたま、息子さんを含めた家族でそのおばあさんの自宅で食事をしていた時、息子が「今、投資というか、蓄財でお金を増やそうかと思っている、アメリカのドルを買うといいらしいよ」という話をしていたらしいです。

その一週間か二週間後に、息子を装う男から、かかってきた電話で「ドルを買って大損して借金を返さなきゃいけない」ということを言われたらしいです。これは本当に偶然だったのか、あるいは情報が漏れていたのか知りませんが、それでしっかり者のおばあさんも、「これ、息子が本当にドルを買って失敗しちゃったんだ」と、「直ぐに借金を返さないとまずい」と思い、その男から教えられた口座に300万円を振り込んだらしいです。

その後、息子に電話したら、「ドルなんか買ってないよ」と言われ、そこで初めて被害に気付いたらしいです。おばあさんは「私は絶対に引っかからないという自信を持っていたので、こんなことで引っかかって本当に恥ずかしい、家族にも凄く批判された。家族もみじめな思いをしている」とおっしゃっていました。

そういうしっかり者のおばあさんでも引っかかりますから、冷静に物事を考えろと言ったところで無理なんじゃないかとは考えられますが、特別な対策でもしていけない限り被害は減りません。

日頃から家族で相談しておいて、こうなったらこうしようという対応を決めておく。要するに、高齢者の方々がなるべく孤立しないよう、日頃から家族を含め、同居しないにしても、「こういう話は絶対怪しい話だから、直ぐに返事をしないで、後で返事するぐらいで断って

おきなさい」とか言っておく必要があると私は考えています。私の今日の話は、犯人が嫌がる「まずは断ること」「明日返事をする事」「誰かに相談すること」という一つの考え方を紹介しました。効果があるかどうかの保証は出来ませんがやってみる価値はあると思います。ぜひ皆さん、日頃から、引っかからない方法をご家族で話し合っていたいただきたいと思います。

以上で私の話を終わります。皆さんどうもご清聴ありがとうございました。

○司 会 守山様、貴重なお話ありがとうございました。今一度大きな拍手をお願いいたします。

5. 閉 会

○司 会 以上をもちまして、令和4年安全安心なまちづくりとの集いを終了とさせていただきます。皆様、本日はお忙しいところ、最後までご参加いただきまして誠にありがとうございました。お忘れ物の無いようおかせりなさいませ。本日はありがとうございました。

以 上